

バセドウ病の3大治療 その3

3 手術治療

治療法の比較

1) 治療の具体的方法、費用、入院の有無

1. 薬物治療	甲状腺ホルモンの合成に関わる酵素の働きを抑え、ホルモンを過剰に作らせなくする薬を内服します。ホルモン値が安定するまで1~数年間の服用が必要です。費用は1回の通院で5000円前後(3割負担の場合、薬の量や検査代で変動有ります)。
2. 放射性ヨード治療	放射線を出す機能を持ったヨウ素のカプセルを服用し、甲状腺ホルモンを作らせなくする治療です。放射線による発がんの心配はありませんが、18歳以下や女性の場合、妊娠・授乳時は不可など適応条件があります。専門の放射線管理室がある総合病院レベルの医療機関でしか行えません。費用は3割負担で3万円前後。治療は1時間程度で終わり、入院不要です。
3. 手術治療	甲状腺の腫れが大きい場合や、薬や放射性ヨード治療で十分な効果が見込めない場合、甲状腺を全摘出する手術が検討されます。費用は3割負担で17万円前後。7~10日間の入院治療が必要となります。

A)手術の長所は早く確実に治ることです。

これはバセドウ病の治療として一番古くから行われていました。

20世紀のはじめにルゴールが使われるまでは、手術後に死亡する人が多く、治療を行う方も受ける方も大変勇気がいりました。術前にルゴールを使用するようになって、手術後の死亡はなくなり安全なものとなりました。

しかし非常に希ですが、手術には、出血、声のかすれ、カラスまがりなどの合併症が起こることがあります。また、キズが残ることや入院する必要があることなどの短所もあります。



甲状腺図5



長所としては確実に早く治ること甲状腺の腫れがなくなることです。

ただし、手術をしたら 100%治って再発がないと言うわけではありません。

100 人のうち 10 人に再発します。術後再発した場合には原則として 2 回目の手術はしません。その場合には、アイソトープ治療をします。

B)手術に適する場合

甲状腺の腫れが大きいとき、シコリを触れがんに疑われるとき、早く治りたいとき、薬をしっかり飲めないとき、薬で治療した後に再発したとき、薬で副作用のあるときなどの場合、手術に適しています。

手術は若い人に適しています。どこまでを若いというかは難しいのですが、15～39 歳までと考えています。50 歳以上は原則として手術は勧めません。シコリのある場合は 50 歳以上でも手術を勧めることがあります。40 歳代はどちらでもよいので、患者さんとよく相談して決めます。成長期にある子どもさんは、手術をしないで薬で治療します。体の成長が止まってまだ治っていなければ、手術した方がよいかもしれません。

C)手術後、一時的に甲状腺機能低下症になることがあります。

手術した後3~4ヶ月、長い人では6~12ヶ月位、甲状腺の働きが落ちることがあります。

これは手術で甲状腺を切り取るために、その状態に慣れるのにそれ位の時間がかかると言うことです。自然と良くなりますので、ほとんどの場合クスリをのむ必要はありません。

最近では、術後の再発を避けるために残す甲状腺組織を少なくする傾向にあります。したがって、術後に甲状腺機能低下症になることがほとんどです。この場合は、甲状腺ホルモン剤さえ飲めば心配ありません。

しかし、甲状腺機能低下症の症状が強くて、日常生活に差し障るときには、短期間だけ甲状腺ホルモン剤を飲んでもらいます。手術後に筋肉がひきつることがありますが、これも甲状腺のはたらきが落ちているためです。

また、妊娠も甲状腺のはたらきの落ちている時期は避けたほうがよいです。どうしても、早く子どもが欲しいときは甲状腺ホルモン剤を飲んで、甲状腺のは

たらきを正常にして妊娠することも可能です。甲状腺ホルモン剤は胎盤を通り
ません。